

どっこい生きてます!

2021

7



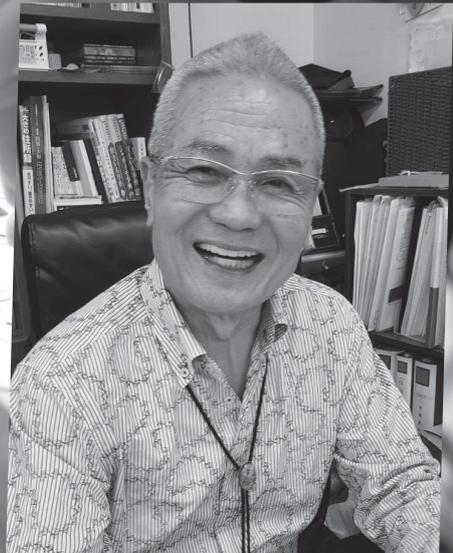
女性ハウス「るみの家」に
めいさんのご両親から
ステキなお心遣いが届きました。

(本誌 4~5 ページに記事)

巻頭言

MESSAGE
from YUTAKA

メッセージフロムゆたか

日本的な家族の
二面性について考える

長引くコロナ禍で私を悩ますのは、プログラムへの取り組みが大きく制約されている仲間たちのことだけではありません。入寮者の家族も気掛かりの一つです。潮騒JTCだけでなく、自助グループで集まって交流することを生きる支えとしてきた当事者やその家族が、新型コロナウイルスの感染拡大で苦境に立たされているのは周知の通りです。潮騒JTCでも、毎月順調に開かれてきた家族会が長く中断を余儀なくされています。問い合わせの電話をいただいても、「とにかく感染状況がもう少し収まらないと…」などと申し訳なく答えるしかありません。人との接触を減らす動きが当たり前となり、使える会場が見つからず、集会や交流の場が持たなくなっている状況下で、オンラインミーティングなど新たな取り組みも始まっていますが、潮騒JTC家族会は力量的にそこまで踏み切れません。やはり共通する問題を抱える当事者の家族は、実際に集い合っただけで元気なことを確認し、お互いに顔を見合わせ本音で思いの丈を語り合うことが欠かせないと、古い人間の私は考えてしまいます。

前号で述べたように、私にはひとさわ強い家族への郷愁があります。あの文章を読んだ方は、「いくら戦争未亡人とはいえ、お腹を傷めた我が子を残して再婚するなんて…」と私の実母に悪感情を抱かれるかもしれません。また、今なら虐待として問題になるような扱いを、幼い私にし続けた養母にも批判的な視線が向かうだろうと思います。でも“衣食足りて礼節を知る”のは、みんなが「食べられる」時代になってからのことです。あの頃は戦後間もなくの混乱期で、みんな

貧しく自分が生きるだけで精一杯でした。私が本心から母の愛情に触れたのは後年、母が亡くなってからのことです。グレて不良青年となった私は地元で居ずらくなり、母の嫁ぎ先の事業を手伝った時期がありました。それほど長くない就労期間で、実際に戦力になったかも怪しいですが、その時に母は無理して私の年金を支払ってくれていたのです。たとえわずかな金額でも、私は母の愛情の深さに涙を禁じ得ません。どんなに浪波節と思われようと、私は自分の体験から家族には理屈では割り切れない絆や癒しのメカニズムがあると信じます。

半面、依存症を病んだ私は家族の持つ「共依存」のマイナス面にも気づかされました。コロナ禍でも感じるのですが、日本社会には過剰に恥の文化が作用して、同調圧力が掛かる場面があります。とりわけ身内の“不祥事”となると、「迷惑を許さない」という得体のしれない理不尽な“世間様”が顔をのぞかせます。このことが依存症に対して自己責任論を背景に、「家族の愛情でなかせ！」と迫ります。結果、当事者家族は社会に「助けて！」の声を上げられず、ますます孤立を強いられて身内の依存症を悪化させてしまいます。このように私は(日本的な)家族には二面性があると考えています。なので潮騒JTC家族会では家族自身が自分たちも「共依存」の病であることを学び、当事者との適度な距離感を取り、ともに回復・成長していくことを目指します。依然として難しい状況ですが、再開がまたれます。

(法人理事長 栗原 豊)

コロナ禍の影響で潮騒葬も小さな「お別れ会」に 死後も仲間がミーティングできるように専用墓も整備



新型コロナウイルスの感染拡大防止策の一環として、不要不急の外出や多人数での集まりを避ける“巣ごもり生活”が当たり前になっています。こうした状況下で葬儀の在り方も、従来の一般葬から密葬や小ぢんまりした家族葬の形式が増えているようです。新聞の訃報欄にも、コロナ禍以前には一般的だったセレモニーホールでの葬儀に交じって「近親者で行う」の告知が散見されます。形式よりも実を重んじる潮騒JTCの葬儀でも、コロナ対策から入寮者全員が一堂に会して仲間を偲ぶ、従来の潮騒葬ができにくい状況から、感染防止に配慮した少人数による「お別れ会」で仲間との最期の別れをしています。

周知のように潮騒JTCには行き場のない高齢の入寮者が多くなり、結果的に施設が「終の棲家」の機能を果たしています。そうした高齢入寮者の多くが、自らの健康を気遣う生き方や社会環境に恵まれなかった経緯から複数の疾患を抱えていることもあって、他の高齢者向け福祉施設と比べても死が比較的、身近にあります。加えて入寮者が家族から縁を切られているケースが多く、不幸にして亡くなっても身内が当事者の最期を看取ることさえも難しい状況です。

そこで問題になるのは、潮騒らしい仲間の死の弔い方です。悲しいことに遺体の引き取りを含め、葬儀や遺骨の扱いも「施設にお任せ」する家族が増えています。「私たちは死んでもなお、実の家族からはうとまれるのか…」。多くの仲間の死を見送って来た

栗原豊センター長は自問の末に、「仲間は家族」の考え方に立って独自の形で仲間の死を弔う一連の流れを定着させました。それが独自の「潮騒葬」です。さらに福祉施設では珍しく潮騒JTC専用の合葬墓も建立しました。

ただ、コロナ禍では密を避けることが必須であるために、入寮者の多くが参列しての潮騒葬は行えません。6月末に執り行われた仲間の一人、アルコール依存症のガッキーさん(本名・菅原晃、享年61歳)の葬儀も多くの仲間や当事者家族の参列はかきませんでした。ごく親しい仲間20数人が参列した小さな「お別れ会」でしたが、それぞれがガッキーさんとの生前の思い出を語り合い、印象に深い葬儀・告別式となりました。仲間の死は悲しいものですが、アルコール依存の回復に向けては文字通り命懸けの貴重で重いメッセージとなります。

栗原豊センター長は「潮騒で人生を閉じた仲間を、潮騒流のやり方で弔うことにはそれなりの意義を感じています。信じる宗教や信仰の仕方は違っても、短い期間であっても潮騒で一時期、回復を目指して仲間と一緒に生活してきた人生の軌跡には重たいものがあります。実の家族からは見捨てられても、潮騒の仲間たちは見捨てません。死んでも無縁仏になることなく、潮騒のお墓で仲間たちと永遠にミーティングができる環境も整っています」として、亡くなった仲間たちを思いやりました。

新たな修復と埋め合わせを与えてくれた“偶然”に感謝！

「匿名希望」の献品に込められた 家族の愛



栗原豊センター長が巻頭言(2ページ)で書いているように、コロナ禍によるコミュニケーション困難の長期化は、潮騒入寮者とその家族にも影響を及ぼしています。そんな中、ひよんな経緯から凶らずも家族の絆の素晴らしさを感じさせる偶然の出来事が施設内でありました。



読者の皆様、お久しぶりです。女性ハウス「るみの家」のめいです。コロナ禍で思い通りにいかない日々が続き、猛暑で体力的にも精神的にも辛い時期ですが、どうかご自愛ください。私はスタッフになり丸2年、すったもんだしながらもなんとかやっています。コロナ禍によってほとんどのイベントが無くなり、例年ならばフォーラムや運動会などで両親に会えていたのですが、それもできません。全く会えないまま2年が経とうとしています。

実は去年の10月に父が大腸がんになり、本来ならば側にいたかったけれど、それもかないませんでした。毎年、両親が年末に届けてくれるおせち料理とアップルパイも去年は初めて郵送でした。スタッフになり、携帯電話を持たせて頂いているのでメールや電話、月に一度の手紙で両親とは繋がっていますが、やはり淋しさは変わりません。



そんな中、7月下旬に事務所の職員さんから施設長の携帯に写メが届き、そこには私の父の名前が書いてある荷物の伝票が写っていました。職員さんによると、宛先が私でも施設長でもなく、施設本部宛でした。でも送り主は私の父親なので、どうしたものかと職員さんが施設長に確認を入れた、という流れでした。

すぐに施設長から両親に確認するように言われた私は母に電話をし、「荷物送った？」と聞いたところ、母からの返事は「なんで知ってるの!」「匿名希望で出したのに…」でした。話を聞くと、送った荷物の中に

入れた手紙に「匿名希望でお願いします」と書いたそうです。でも、郵便局ではそれが通じなくて、素直に父の名前で出したとのこと。中身は使わなくなったドライヤーや着なくなった母や父、祖父の洋服などでした。その日の夜に再び母に電話して、「なぜ匿名希望にしたの?」と聞くと、私宛に送ってしまうと私が仲間達にヤキモチを焼かれたり、嫌な思いするのでは…、と考えたそうです。私は両親の行き届いた配慮と謙虚な思いやりに涙が出そうになりました。

一方、施設側では8月初旬に栗原センター長の「クリーンバースデー18年を祝う会」を計画していましたが、これもコロナ禍で断念したとのこと。両親に会えると期待していたのがっかりです。母達の思いもはじけた瞬間でした。「るみの家」に繋がり、突き放しのプログラムを忠実に守り、実践している両親の深い愛を感じざるを得ませんでした。



翌日、私の元に「匿名希望さん」からの荷物が届き、施設長の配慮で一番に見せてもらいました。箱を開けると懐かしい母の匂い。見覚えのある服。またまた涙の私でした。母にLINEをし、お礼を伝えると、母から長いLINEが返ってきました。

「6年前自分にかけて呪縛から、遅まきながら解き放たれた感あり! 正しい突き放しの為には、めいの生活の中にママ達の気配を必要以外感じさせないことが大事だとインプットしちゃったみたい…、2度と間違えたくないパパとママだから…。めいの回復の度合いに応じた、親のプログラムの軌道修正が遅れていたのでしょうか。めいは何度も示唆して回復のアピールをしてくれていたのにね…。ママもめいが喜んでくれる物を“るみハウス”に贈りたい。何がいい? みんなが喜んで、めいをもっと喜ぶ物?…」

文面に浮き出た母達の愛がただ嬉しくて、私は「匿名希望さん」から始まった新たな家族関係の修復と埋め合わせを与えてくれた偶然(=ハイヤーパワー)に感謝しました。翌日、何か吹っ切れた母と父はコストコに走り、その翌日には今度は堂々と両親の連名で「るみの家」に特大の荷物が届きました。箱を開けると甥っ子の名前が書かれたバスタオルが覆い被さり、そっとめくと私の大好きなチョコレートやおせんべい、タオルがちゃんとハウスの仲間たちの人数分入ってありました。事前に人数も聞いてくる慎重な両親らしいやり方だなと感心しました。両親の愛に包まれて幸せを感じています。

「るみの家」に繋がる以前の私は酒、処方薬、窃盗に明け暮れ、両親のことなど考えた事も無く、「親なんだから当たり前でしょ」とばかりにやりたい放題でした。両親の思い出の指輪も簡単に売り飛ばしてしまう私でした。6年前に「るみの家」に繋がり、両親に恨みと怒りしか持っていなかった私…。プログラムの中で「恨みが感謝に変わる」と言われたけれど、「そんなこと起こるわけじゃない!」と思っていた私でした。

面会に来てくれた両親に対しても、嬉しさは最初の頃ほとんどありませんでした。面会のときに施設長から条件があり、お金をあげたり物を買うことは禁止でした。ただ、千円分のお菓子くらいならOKとのこと、私はそのお菓子目当てで会っていたようなものでした。お菓子選びも大変で、窃盗壁のある私ですから、父親はずっと後を付いてくるし、レジで千円をちょっとでも超えたら「めい君オーバーしてるよ!」と父、「あはは…」の私でした。

その私と両親に施設側から突き放しのプログラムを与えられ、それからは面会の回数が減り、手紙のやりとりが中心でした。私宛に荷物が届くことはなく、私の携帯電話に母から発信してくることも、父の大腸がんのこと以外はありませんでした。月に一度の手紙も最初の頃はうっとうしく、「またかあ…」の私でしたが、12ステップの実践、自分を変えるプログラムをしていくうちに私自身が変わり、また私の両親も潮騒家族会に繋がってくれており、両親自身も変わったのかもしれない。本当に恨みが感謝に変わるということをもって体験しました。そのおかげで本当の修復関係が始まったのかもしれない。これもハイヤーパワーのおかげです。



潮騒家族会に繋がっている男性仲間の家族は、毎月家族会があった後に月に一度の面会が許されていて楽しみにしていたのに、コロナ禍で1年半以上会えず、どのような形の修復関係ができていくか分かりませんが、やはり家族には会いたいものですよね。ですから早くコロナ禍が収束することを心から願います。

今回のことから、また私達親子の新たな修復関係が始まると思うとワクワクしています。来年こそコロナ禍が収束し、潮騒フォーラムでエイサーを通して皆さんに元気と笑顔、勇気を与えられるように日々練習をしています。どうぞお楽しみに。パパ、ママ、私を産んでくれて有り難う! 愛してるよ。(めい)

お酒で失った過去から 新しく生き直したい

vol.03 シンジ回復記



【これまでの流れ】中学生で飲酒を覚え、19歳には明らかに依存状態に陥り、トラブルを引き起こした。クリニックでアルコール依存症と診断され、デイケアと自助グループに通い、順調に回復して仕事に復帰。ほんの気の緩みからクリーン3年目に缶ビール1本でスリップし、すべてを失う。病院に3回入院してもやめられず、行政の福祉窓口を通じて潮騒JTCに繋がった。

東京から茨城へ引っ越し、ここの仲間を迎えに来てもらい、神野寮で約2週間過ごして、玉造ヘナイト(共同宿泊寮)移動。次の日からデイケアに通所し、まずはたくさんの仲間がいることに驚きました。

1週間くらいすると、玉造の仲間がお弁当やパンの仕分けをしていたので、お手伝いをするようになりました。そしてデイケアでは午前中ミーティング、午後はパンとお弁当の仕分けをするようになりました。1カ月が過ぎた頃に、玄関でお弁当を持っていたところ、いきなりスタッフのツカさんが呼んでいると言われ、めっちゃめっちゃビビってました。「俺なにか悪いことをした

のかな…」と。

ドキドキしながら会議室へ行くと「サポーターをやらないか?」。ツカさんから誘われ、そこからサポーターとしていろいろな役割をもらい、やらせてもらいました。

「今日一日」素面で成長し 回復を目指す

今は、見習いから正式なサポーターにならせてもらい、病院の引率や、最初からやらせてもらっているお弁当の仕分け、バースデーミーティングのメンバーへの対応、そしてナイトが変わり玉造寮から小山寮へと移動しました。なので今は小山寮での役割をこなしています。

振り返ると、本当に何も無いところからスタートして、今では仲間(家族)とのミーティング、分かち合いの日々を楽しみながら、苦しみながらも、生かされていることに感謝し、「今日一日」を精いっぱい、素面で成長・回復していきたいと思います。ありがとうございました。(終わり)

「美空野(みその)保育園」で恒例の夕涼み会

ごちゃませ保育園としてユニークな保育活動を行っている鹿嶋市の認可保育園「美空野(みその)保育園」(山下佳子園長)で夏場恒例行事の夕涼み会があり、潮騒JTCのメンバーが加わって楽しい会となりました。潮騒JTCにとっては地元における良き理解者であり、子どもたちと触れ合える貴重な場でもあります。今回もイベントに合わせて潮騒メンバーが園庭の草刈りやステージ作りに汗を流しました。

潮騒JTCでは同保育園のこうした季節の催し物に積極的に参加させてもらっているほか、イベントがある度に潮騒・鹿嶋琉球太鼓(エイサー)発表も依頼され、子どもたちと一緒にコラボレーション演舞をさせてもらっています。潮騒の仲間たちは自己否定感が強いだけに、こうした形で地元で認められ、必要とされ、さらには感謝されていることに新鮮な感動と達成感を得ています。

こうしたイベント以外でも、気さくに「何でも屋」的な感じで軽作業や子守りを行わせてもらっています。まさに美空野あつてのジョブであり、潮騒ジョブあつての美空野と、勝手ながら思っています。(ヒトシ)



受刑者 からの手紙

「受刑者の手紙」は本来は公開されることを前提としていない私信ですが、当事者の本音が書かれており、依存症回復の第1歩である「自分に正直になること」を示す手本です。プライバシーに配慮し、掲載させていただいています。

今後は潮騒のことだけを思って生きていきたい

真夏の暑い暑さですが、皆様お変わりないですか？私は相変わらずの生活を送っています。ただ、今の生活の中で仕事という仕事が大嫌いになってきている自分に、本当に困っております。仕事をするに当たり何から始めたらいいのかわからないのです。贅沢な悩みでしょうか？仕事をするのであれば、潮騒ジョブで生活保護を受けながらプログラムをしたいです。

一つだけ教えて頂きたいのですが、そちらに行ったら一人部屋になるのか、また雑居なのでしょう？今私は一人で生活していますが、これがとても居心地がいいのです。自分なりに思索を深めるにはもってこいです。シゲさん、今日は手紙の日になってしまいましたよ。今頃、栗原豊センター長さんやシゲさんは何をしているのでしょうか？ここにきて私の残刑も一年を切りました。気が早くも出所時の心配をしています(笑)。私には出所の日に着替えられる

服が一着しかありません。ですので潮騒に行く時には新しい服と下着、パンツと靴下を買いたいと思っています。できましたら、そちらで用意して頂けると有難いのですが…。

とにかく今後は潮騒のことだけを思って生きていきたいです。これを約束し、覚悟して潮騒に行きます。私は今まで誰とも手紙のやりとりをしていなかったのですが、有難いことにコミュニケーションがとれる人が現れ、こうしてシゲさんと手紙のやり取りできることは、とても嬉しいことです。一つの願いが叶ったらまた一つの願いが叶うわけで、その叶った願いは一生続いていくのです。私の願いはシゲさんと一緒に潮騒でプログラムを受けることです。どうか今日一日が感謝でありますように…、そう切に願い今回は終わります。

(東京都 Iさん)

異常なほどの猛暑と時ならぬ豪雨に気をつけて

暑中お見舞い申し上げます。お便りもありがとうございます。センターの建物は頑丈なので安心ですが、鹿嶋地方もこの異常なほどの猛暑や、これに影響しているとされる時ならぬ夏場の豪雨などによって畑(潮騒農場)や農道などが荒れていませんか…、心配です。被害など出ないように祈るばかりです。どうやら残暑も引

き続き厳しい気象予報です。栗原センター長、職員・スタッフ、そして入寮している仲間の皆さん、くれぐれも熱中症などに気をつけ、どうかご自愛していただきますように。短いですが、これにて筆を置きます。

(神奈川県 Hさん)

しおさい俳壇

7月のお題 西瓜

選者 桐本石見



特選句

幼子の
力たらずや西瓜割り

しま

西瓜割りの起源は定かでないが、西瓜の原産地アフリカで出来を占った、または日本の居合抜きが今に伝わったとも。海水浴の楽しみの一つ、幼子が上手く打ち当てたのに割れないのも微笑ましく家族の明るい景を彷彿する句。



特選句

西瓜割り
仲間の声は嘘ばかり

ワカ

キャンプや海水浴の定番の西瓜割りは仲間が左右前後を恐らすのも、空振りでの罰ゲームも楽しい。因みに、一九九一年農協が西瓜販売促進にルールを定めたと言う。距離9m15cm棒1m20cm、今はJAみちのくが距離5〜7m三分間で競うとも。嘘ばかりに俳諧の面白い句です。



特選句

砂を噛む
味も楽しいや西瓜割り

ユタカ

海水浴の浜辺の西瓜割るか、割れて皆で食べるが少し砂が混じるのも実感の西瓜割り。今ではシートなど敷くが割れた大きさや味も話題の楽しい景の句で私も若い頃のキャンプが懐かしい。

俳句へのいざない

第十八回 地名考

俳句では季語の他に地名のある句があります。例えば、

五月雨を集めて早し最上川 芭蕉

この詠は山形県の最上川の梅雨の景を彷彿し地元への挨拶も込めた大景の句です。そこで地名は何時頃からあり謂れなど思いを巡らし句に詠むのも旅の一興と思います。

日本では四世紀頃までは漢字が無かったので口伝で地名など伝えていましたが、その後は、地形歴史、産物、植物、海産物、政治、アイヌ語、朝鮮語、中国語などの影響を受けそれらを包含しながら今の地名に成ったと言われます。例えば鹿島は、香島之大神、船を繋ぐ榎の大木のある処のカシマが鹿島になったとも。

また最上川は毛賀美「珍しい岩が多い意」崖の上「モモカミ」モーカムイ「アイヌ語の静かな神の意」などあります。

まずは自分の故郷や今住む処の地名などの謂れを調べながら一句を詠むのは如何でしょうか、有名な地名などは写真や絵の様に景が見え大景の句になり旅した処は懐かしく記念になります。

葛の花荒れて日和の鹿島灘

明日葉や沖を遠見の野島崎 石見



今日の秀逸句

この棒も
鬼滅の刃西瓜割り

ラク

鬼滅の刃はアニメで名高いが、西瓜割りの棒もそれに倣うのは童心の思いがして楽しい。日本では剣は神聖化され草薙の剣など名刀も多い。面白い句。

下津浜
カモメも見てる西瓜割り

ヒロ

下津浜は鹿島神宮の東にあり海水浴場が昔から賑わう。仲間での西瓜割りか、近くの松原に鷗が止り裾分けでも狙っているのかも。面白い句。

西瓜割り
的が外れて何処までも

オノ

西瓜割りはその時の場所により距離も異なるが、浜など広い所では10mもあり方向音痴の人は大きく外れる、それも面白いが少し危ない実感の句。

目隠しは
父の手ぬぐい西瓜割り

ロコ

家族での西瓜割りか、特別な目隠しも無いので父の手ぬぐいを使う、少し親父臭いのも余計に親しみが湧く楽しい景の句。

目隠しを
少しづらして西瓜割り

れいこ

西瓜割りには目隠しをしスタート地点で左右にぐるぐる廻しをするが、隙を見て目隠しを少しずらすのもテクニク。見付かると罰ゲームなどあるが如実の面白い句。

西瓜割る
子らの歓声下津浜

いるか

西瓜割りは大人も子供も楽しいが子供の方が本気でやるので割れると歓声も大きく、外れてしよげる子も又可愛い。コロナ禍も治まり下津浜の人数を期待する。

佳作

日差しにも負け仲間と西瓜割り	くま	爺と孫コロナ忘れて西瓜割り	ラク
目が廻り進みし先の西瓜割り	コン	楽しいな海水浴に西瓜割り	あっちゃん
西瓜食ふ鼻息出して種多し	ミニー	庭先に君も西瓜もピンク色	アオ
下津浜西瓜割りより水着ギャル	ホタテ	棒一つ西瓜も夏も割る思い	あきら
西瓜割り砂浜叩きしかめ面	めい	円陣に皆で楽しむ西瓜割り	サイ
西瓜割り皆で車座ほうばるか	ちあき	西瓜割り仲間の声も楽しける	みっちゃん
西瓜割り形いろいろ食べるかな	シンちゃん	西瓜割り力の竹刀的外れ	ナデキ
親も子も張り切り競ふ西瓜割り	ヒロ	西瓜割り割って見たればメロンなる	ナルポー
下津浜皆で楽しい西瓜割り	シンジ	右左西瓜めがけて振りかぶり	えび
童心に胸のときめく西瓜割り	まこ	青空に紅の飛び散る西瓜割り	ゆーみん
西瓜割れ恋も割れたる浜の暮	トラマル	西瓜割り故郷の海を思ふかな	バズ
童心に帰る海原西瓜割り	のん	目隠しの右に左に西瓜割り	みく
むかつくや力の限り西瓜割り	キム	西瓜割り思い出しける夏休み	チャコ
西瓜割り皆が揃いて楽しいな	ニモ	ママの声頼りに子らの西瓜割り	ユタカ
嬉しさも友と海辺の西瓜割り	ひーちゃん		

7月 Clean Birthday シラフを祝おう! クリーンバースデー

アダクト(依存症者)のクリーンタイム(断酒、断薬、断賭博の期間)を祝う
「クリーン・バースデー」対象者を、コメントを添えて紹介します。



ヒーサン

ユトリのある生き方を
選びたいものです。



トシオ

まだまだこれから頑張ります



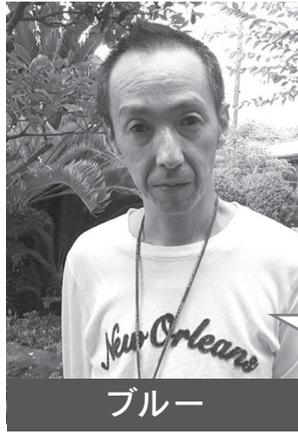
マスオ

早くお母さんに会えるように、
がんばります



ユタカ

「Just for today」
の積み重ね



ブルー

嬉しいです。感謝。



マジ

飛ばぞコリアー!!

事務局からのお知らせ

本誌を定期的に購読することをご希望の方はぜひ「定期購読会員」のご登録をお願いいたします。私たちは、生きづらさを感じている方やそのご家族・支援者の方々、そして地域の方々に、当法人の取り組みや「依存」との向き合い方を伝えたいという思いで潮騒通信『どっこい生きてます』を発行しています。1人でも多くの方の手に届くことを願っております。

問い合わせ先

購読会員登録係
0299-77-9099

購読会員を
募集しています



献金・献品を頂いた方

(7月15日現在)

- ・小川 登志枝 様
- ・石綿 茂子 様
- ・NPO法人 輝 様
- ・久保寺 猛 様
- ・高田 武義 様
- ・金子 眞佐江 様
- ・野本 俊子 様
- ・匿名希望 様
- ・社会福祉法人 芳香会 宇留野 光子 様
- ・有限会社 柴田工作所 代表取締役 柴田 宣政 様
- ・鹿島市神の道運営委員会 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

7月の行事

7月1日 6月クリーンバースデー
 7月7日 水戸保護観察所スマーブ
 7月15日 潮騒俳句会

8月の行事予定

8月4日 水戸保護観察所スマーブ(中止)
 8月8日 7月クリーンバースデー
 (鹿嶋勤労文化会館)(中止)
 8月13日 盆供養・納骨式
 8月19日 潮騒俳句会

※感染予防対策を徹底して行います。状況に応じて中止や延期になる場合があります。

ごまめの歯ざしり

スポーツの世界に「ホームタウンディシジョン」という言葉がある。そう知ったのは「サポーター」の表現が広まった、Jリーグ発足(1993年)時だったと思う。審判員が下すホーム側に有利なようにみえる判定のことで、八百長などとは異なり、選手側には一切非がない。ともすると審判の主観に基づく判定が、地元の選手に有利な傾向を持つと言われたところから、この言葉が普及したらしい。実際、反則行為とみなすかどうか微妙な感じのプレーに対し、ホーム側に有利と思われる判定が下される場面はしばしば目にする。まあ、昔から日本語で言われてきた「地の利」や「地元びいき」と考えれば納得がいく▼でも、審判員だって神様じゃない、生身の人間だ。スタジアムを埋めた地元サポーターのホームゲームで、試合をコントロールしながら公平公正に判断を下すのは至難の業だろう。この不公平感をなくすためにサッカーではビデオアシスタントレフェリー(VAR)を導入、東京五輪でも威力を発揮していた。もっともコロナ禍で無観客試合がほとんどだったから、日本選手たちはホームタウンディシジョンの恩恵はなかったかもしれない。それでも、やはり五輪は魔物。地元開催の重圧は相当なものだったろう▼そんな中で僕が印象に残ったのは五輪のメディア報道の変化だった。選手以上にメダル(特に金メダル)に拘泥する傾向はあったものの、各新聞が

1面でことさら国別メダル獲得数を強調する報道は弱まっていた。五輪は本来、地球的なレベルで平和を希求する崇高な理念を掲げる平和運動のはず、なのでIOC憲章に「五輪組織委は国ごとの世界ランキングは作成してはならない」とうたってある。しかし、悲しいことに五輪はたやすく政治利用され、ナショナリズム発揚の場となり、すっかり商業主義に毒されてしまった。IOC貴族のカネ儲け興行に成り下がった、と言えは言い過ぎだろうか▼それでも昔と違って、競技を終えた選手たちがまず自分が「楽しんだ」と話していたのが清々しかった。スポーツの語源は「楽しむ」ことにあるのだから、原点を志向した言葉だろう。その意味で古臭い汗と涙と感動に囚われず、遊びの要素がふんだんに垣間見える都市型スポーツやサーフィンなど多様なスポーツ種目が今後も五輪に増えるといいなあと思う。ともかくもコロナ禍の悪状況下で問題の多かった東京五輪の喧騒が終わった。のど元過ぎればなんとやら…で、五輪強行のツケを棚上げしそうな気配の政治の在り方を、ご祝儀相場でチャラにしたい▼だって、膨らみに膨らんだ五輪経費をほんの少しでも依存症問題に回したなら、どれだけ多くの仲間たちが救われたことか…。(勝)

潮騒通信 **どっこい生きてます!** 2021年7月号

Contents

P ② 巻頭言: MESSAGE from YUTAKA

日本的な家族の二面性について考える

P ③ コロナ禍の影響で潮騒葬も小さな「お別れ会」に

P ④ 「匿名希望」の献品に込められた家族の愛

P ⑥ シンジ回復記 vol.03 お酒で失った過去から新しく生き直したい / 「美空野(みその)保育園」で恒例の夕涼み会

P ⑦ 受刑者からの手紙 P ⑧ しろさい俳壇 7月のお題「西瓜」

P ⑩ 7月のクリーンバースデー / 献金・献品 P ⑪ 行事予定 / ごまめの歯ざしり



■ 編集・発行: 特定非営利活動法人 潮騒 ジョブトレーニングセンター
 理事長: 栗原 豊

本 部: 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210 番地 10

事務局: 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4 丁目 4-5

潮騒アディクションビレッジ会館 4 階

TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

E-メール siosai2010@yahoo.co.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



この4月から、潮騒JTCでは待ち望まれていた有給スタッフ職員が誕生し(4月号に記事掲載)、栗原豊センター長から初任給が手渡されました。サラリーマンの給料支給といえば今では銀行振り込みが主流ですが、入寮者の就労支援に力を入れる潮騒JTCでは労働の重みとその成果を実感してもらおうと、あえて手渡して実施しています。職員とはいえ、アルコールや薬物、ギャンブルに問題を抱える当事者ですから、自分で金銭管理することも回復に向けた“試練”となります。それも含め潮騒JTCでは当事者職員の回復と成長を見守っていきます。